

# HP OMi Management Pack for Oracle Database

ソフトウェアバージョン: 1.10

HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

## インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2015 年 1 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 2 月



## ご注意

### 保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2014 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft グループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、HP Passport のサインイン ページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

## サポート

次の HP ソフトウェアサポートの Web サイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

## HP Software Solutions & Integrations and Best Practices

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) を参照してください。このサイトでは、HP ソフトウェアのカタログに記載された製品の説明を確認したり、情報を交換したり、ビジネス ニーズを解決することができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) からは、さまざまな ベスト プラクティス文書や資料にアクセスすることができます。

# 目次

第1章: はじめに .....	6
このマニュアルで使われている略語 .....	6
関連ドキュメント .....	7
ライセンス .....	7
第2章: OMi MP for Oracle Database のインストール .....	8
インストールメディア .....	8
インストールの前提条件 .....	9
ハードウェア要件 .....	9
ソフトウェア要件 .....	9
BSM サーバでのソフトウェア要件 .....	9
OMi サーバでのソフトウェア要件 .....	10
インストール時のチェックリスト .....	10
BSM サーバ用チェックリスト .....	10
OMi サーバ用チェックリスト .....	12
OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行 .....	12
タスク 1: Oracle 管理テンプレートまたはアスペクトの割り当ての削除 .....	12
タスク 2: 失敗したデプロイメント ジョブの削除 .....	13
タスク 3: Oracle アスペクトへの参照の削除 .....	13
タスク 4: Oracleフォルダおよびサブフォルダの削除 .....	13
タスク 5: クリーンアップスクリプトを実行して、OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 のコンポーネントを削除します。 .....	14
タスク 6: クリーンアップの確認 .....	15
その他の BSM DPS 更新の BSM 9.23 へのインストール .....	15
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール .....	17
BSM または OMi での OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストール .....	17
Linux BSM または OMi サーバの場合 .....	18
Windows BSM または OMi サーバの場合 .....	20
ライセンスの適用 .....	21
Operations Orchestration (OO) フローのインストール .....	22
OO フローのアップロード .....	22
OMi MP for Oracle Database のインストールの確認 .....	23
第3章: 作業の開始 .....	25
BSM コンソールでの作業の開始 .....	25
タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加 .....	25
タスク 2: Oracle 検出アスペクトのデプロイ .....	25

タスク 4: 検出の確認 .....	26
タスク 5: Oracle 管理テンプレートまたは Oracle アスペクトのデプロイ .....	27
タスク 5a: Oracle 管理テンプレートの特定とデプロイ .....	27
タスク 5b: Oracle アスペクトのデプロイ .....	29
root 以外のユーザが実行する HP Operations Agent 向けに OMi MP for Oracle Database を設定する方法 .....	30
OMi コンソールでの作業の開始 .....	31
タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加 .....	31
タスク 2: Oracle 検出アスペクトのデプロイ .....	32
タスク 3: 検出の確認 .....	32
タスク 4: Oracle 管理テンプレートまたは Oracle アスペクトのデプロイ .....	33
タスク 4a: Oracle 管理テンプレートの特定とデプロイ .....	33
タスク 4b: Oracle アスペクトのデプロイ .....	35
root 以外のユーザが実行する HP Operations Agent 向けに OMi MP for Oracle Database を設定する方法 .....	36
ドキュメントのフィードバックを送信 .....	38

## 第1章: はじめに

HP OMi Management Pack for Oracle Database (OMi MP for Oracle Database) は HP Operations Manager i (OMi) と連携し、Business Service Management (BSM) を使用してユーザ環境で稼働する Oracle データベースと基盤インフラストラクチャを監視します。OMi MP for Oracle Database では、環境内で稼働する Oracle データベースの動作状況とステータスを監視する目的で、次のコンポーネントが提供されています。

- Oracle 管理テンプレート
- Oracle のアспектとポリシーテンプレート
- パラメータ
- イベントタイプインジケータ (ETI)
- 状況インジケータ (HI)
- トポロジベースのイベント相関処理 (TBEC) ルール
- Operations Orchestration (OO) フロー
- ツール
- グラフテンプレート

注: コンポーネントの詳細については、OMi MP for Oracle Database オンラインヘルプまたはオンラインヘルプのPDF版を参照してください。

## このマニュアルで使われている略語

名称	説明
BSM	Business Service Management
OMi	HP Operations Manager i
RTSM	ランタイムサービスモデル
MPDVD	OMi Management Pack for Oracle Database DVD
BSM DPS	BSM データ処理サーバ
BSM GWS	BSM ゲートウェイサーバ

名称	説明
OMi MP	HP OMi Management Pack
OMi MP for Oracle Database	HP OMi Management Pack for Oracle Database

## 関連ドキュメント

BSM および Monitoring Automation についての詳細は、BSM マニュアルを参照してください。

OMi についての詳細は、次のドキュメントを参照してください。

OMi MP for Oracle Database の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- リリースノート
- オンライン ヘルプの PDF 版

## ライセンス

OMi MP のライセンスは、25 ライセンスがパッケージで提供されます。アプリケーションのタイプに関わらず、OS インスタンスごとに 1 ライセンスを使用します。たとえば、ライセンスパックには、OMi MP for Microsoft SQL Server のライセンス 5 個、OMi MP for Oracle Database のライセンス 10 個を、サポートされているその他のアプリケーションと組み合わせて含めることができます。

Entitlement Order Number (EON) のライセンスを取得するには、[www.hp.com/software/licensing](http://www.hp.com/software/licensing) にアクセスし、HP Passport の資格情報でログインします。

ライセンスの適用の詳細は、「[ライセンスの適用](#)」を参照してください。

## 第2章: OMi MP for Oracle Database のインストール



この項では、BSM サーバ(Linux and Windows) および OMi サーバ(Linux and Windows) での OMi MP for Oracle Database のインストールについて説明します。

### インストールメディア

この項では、OMi MP for Oracle Database のインストールメディアについて説明します。OMi MP for Oracle Database は OMi MP for Oracle Database DVD (MPDVD) および電子メディアに収録されています。MPDVD および電子メディアは、英語および英語以外のロケール環境に対応しています。ロケール要件に基づき、適切なインストールメディアを使用できます。

OMi MP for Oracle Database DVD および電子メディアには、ソフトウェアおよび製品マニュアルが収録されています。分散環境では、すべての BSM データ処理サーバ(BSM DPS) とゲートウェイサーバ(BSM GWS) にインストールする必要があります。

次の表に、MPDVD と電子メディアに収録されているドキュメントの情報を記します。

ドキュメント	場所	目的
オンライン ヘルプ	BSM コンソールの <b>[ヘルプ]</b> メニューで利用できます。  BSM コンソールから、 <b>[ヘルプ] &gt; [BSM ヘルプ] &gt; [Application Administration] &gt; [Operations Management] &gt; [OMi Management Pack for Oracle Database]</b> に移動します。  OMi コンソールの  メニューから使用可能。  OMi コンソールから、  <b>&gt;[全般的なヘルプ] &gt; [管理ガイド] &gt; [管理パック] &gt; [OMi Management Pack for Oracle Database]</b> に移動します。	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>管理テンプレートの使用</li><li>アスペクトおよびポリシーテンプレートの使用</li><li>HI と ETI の各インジケータおよび TBEC ルールの使用</li></ul>
インストールガイド	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
オンライン ヘルプの PDF 版	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
リリースノート	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>主要な機能</li><li>インストールについて</li></ul>



## インストールの前提条件

以下の項では、BSM (Linux および Windows) サーバおよび OMi (Linux および Windows) サーバでの OMi MP for Oracle Database のインストールに関するハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を一覧表示します。

### ハードウェア要件

特定のハードウェア要件については、『BSM インストールガイド』を参照してください。

### ソフトウェア要件

OMi MP for Oracle Database を BSM サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[BSM サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

OMi MP for Oracle Database を OMi サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[OMi サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

### BSM サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for Oracle Database をインストールする前に、BSM サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

#### BSM サーバ

コンポーネント	バージョン
BSM	9.23 以降*
HP OMi	9.23 以降*
HP Monitoring Automation	9.23 以降*
OMi MP for Infrastructure	1.10
OMi MP for Oracle Database	1.10

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

\* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

#### 管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*

\* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

#### SiteScope サーバ

コンポーネント	バージョン
SiteScope	11.22 以降*

\* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: ハイブリッド Oracle 管理テンプレートをデプロイする場合、SiteScope 11.22 以上のバージョンをインストールする必要があります。

## OMi サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 をインストールする前に、OMi サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

#### OMi サーバ

コンポーネント	バージョン
HP Operations Manager i	9.23 以降*
OMi MP for Infrastructure	1.10
OMi MP for Oracle Database	1.10

注: 大規模環境では、BSM 9.24 以降を使用することをお勧めします。

## インストール時のチェックリスト

OMi MP for Oracle のインストールでは、次の表にまとめた手順を指定の順序で事前に行います。

OMi MP for Oracle Database を BSM サーバにインストールする場合は、「[BSM サーバ用チェックリスト](#)」を参照してください。

OMi MP for Oracle Database を OMi サーバにインストールする場合は、「[OMi サーバ用チェックリスト](#)」を参照してください。

## BSM サーバ用チェックリスト

#### 管理対象サーバ

タスク	参照先
BSM のインストールに必要な前提条件のチェック	『BSM インストールガイド』の「一般的な前提条件」を参照してください。
BSM バージョン 9.20 および BSM 9.23 以上の Service Pack のインストール	『BSM インストールガイド』の「BSM 9.20 のインストール」と「最新の BSM 9.2x マイナーマイナーリリースとパッチのインストール」を参照してください。
Monitoring Automation バージョン 9.23 以降のインストール	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「インストールの前提条件」と「BSM サーバーでの Monitoring Automation のインストールと構成」の章を参照してください。
Monitoring Automation のインストールの確認	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「Monitoring Automation のインストールの確認と操作」の章を参照してください。
OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 から 1.10 への移行	OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、 <a href="#">「OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行」</a> を参照してください。
その他の BSM DPS 更新のインストール	<a href="#">「その他の BSM DPS 更新の BSM 9.23 へのインストール」</a> を参照してください。
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for Oracle Database 1.10 のインストール	<a href="#">「BSM または OMi での OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストール」</a> の項を参照してください。
ライセンスの適用	<a href="#">「ライセンスの適用」</a> の項を参照してください。

#### 管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

## OMi サーバ用 チェックリスト

### 管理対象サーバ

タスク	参照先
OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 から 1.10 への移行	OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、「 <a href="#">OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行</a> 」を参照してください。
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for Oracle Database 1.10 のインストール	「 <a href="#">BSM または OMi での OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストール</a> 」の項を参照してください。
ライセンスの適用	「 <a href="#">ライセンスの適用</a> 」の項を参照してください。

### 管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

## OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行

OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 をインストールする前に、OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 を削除しておく必要があります。この項では、OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 の削除について説明します。次の手順は、OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 にのみ必要で、これより上のバージョンには必要ありません。

OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 を削除するには、次のタスクを実行する必要があります。


### タスク 1: Oracle 管理テンプレートまたはアスペクトの割り当ての削除

Oracle 管理テンプレートまたはアスペクトの割り当てを削除するには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト]を開きます。  
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [割り当ておよび調整]をクリックします。  
OMi では、[管理] > [監視] > [割り当ておよび調整]をクリックします。
2. [ビューの参照] タブで、ORA\_Deployment またはビューを選択し、そのビューに関連付けられた CI を表示します。
3. 各 CI に割り当てられた Oracle 管理テンプレートまたは Oracle アスペクトを削除します。

## タスク 2: 失敗したデプロイメント ジョブの削除

失敗したデプロイメント ジョブがあれば、次の手順を実行してそれらのジョブを削除する必要があります。

1. [デプロイメント ジョブ] ペインを開きます。  
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [デプロイメント ジョブ]をクリックします。  
OMi では、[管理] > [監視] > [デプロイメント ジョブ]をクリックします。
2. 失敗したデプロイメント ジョブを選択し、 をクリックします。

## タスク 3: Oracle アスペクト への参照の削除

Oracle アスペクトが、ユーザが作成した管理テンプレートまたはアスペクトによって使用されている場合は、ユーザが作成した管理テンプレートまたはアスペクトを編集してアスペクトへの参照を削除してから、アスペクトを削除します。

ユーザが作成したアスペクトを編集して、別のアスペクトにネストされた Oracle アスペクトを削除できます。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト]を開きます。  
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]をクリックします。  
OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]をクリックします。
2. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで、ユーザが作成した管理テンプレートまたは参照されている Oracle アスペクトを編集します。

## タスク 4: Oracle フォルダおよびサブフォルダの削除

Oracle フォルダおよびサブフォルダを削除するには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト]を開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、[構成フォルダ] > [データベース管理] > [Oracle] をクリックします。
3. 右クリックして、Oracle フォルダを削除します。

**注:** Oracle フォルダを削除したときにエラーが表示される場合は、一部の割り当てまたは参照が残っています。次の例で詳しく説明します。

**例 1:** いずれかの OMi MP for Oracle Database アスペクトまたは管理テンプレートがいずれかの CI に割り当てられている場合、次のエラーが表示されます。

アスペクト バージョン "Oracle Database Availability 1.0" (ID: d1239cd9-83c1-79a1-109d-7ec2fda557e6) を削除できません。まだ CI "<CI の名前>" (ID: 337244a5137b2bfc8588508a9ea45ca9) に割り当てられています。

Oracle アスペクトまたは Oracle 管理テンプレートの割り当てを削除する方法の詳細は、「[タスク 1: Oracle 管理テンプレートまたはアスペクトの割り当ての削除](#)」を参照してください。

**例 2:** いずれかの OMi MP for Oracle Database アスペクトが他のアスペクトまたは管理テンプレートで参照されている場合、次のエラーが表示されます。

アスペクト バージョン "Oracle Database Availability 1.0" (ID: d1239cd9-83c1-79a1-109d-7ec2fda557e6) は、管理テンプレート バージョン "XYZ 1.0" (ID: f21deb26-1ddf-8e6b-ecb4-ac331db4c963) に属しているため、削除できません

Oracle アスペクトの参照を削除する方法の詳細は、「[タスク 3: Oracle アスペクトへの参照の削除](#)」を参照してください。

**Oracle フォルダが正常に削除されるまで、次の手順を実行する必要があります。**

## タスク 5: クリーンアップスクリプトを実行して、OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 のコンポーネントを削除します。

**ヒント:** 以下の手順に進む前に、Oracle フォルダが削除されたことを確認してください。

OMi MP for Oracle Database バージョン 1.00 をクリーンアップするには、次の手順を実行します。

**注:** BSM 分散環境では、BSM DPS でのみ次の手順を実行する必要があります。

1. OMi MP for Oracle Database 1.10 DVD をマウントします。
2. <DVD folder>\cleanMP1.0 に移動します。
3. 次のスクリプトを実行して、OMi MP for Oracle Database コンポーネントをクリーンアップします。

**Linux の場合:** ./cleanMP.sh OracleDB <BSM ユーザ名> <BSM パスワード>

**Windows の場合:** cleanMP.bat OracleDB <BSM ユーザ名> <BSM パスワード>

## タスク 6: クリーンアップの確認

クリーンアップを確認するには、以下の手順を実行します。

1. ポリシーテンプレートを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー テンプレート] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [ポリシー テンプレート] をクリックします。

[ポリシー テンプレート グループ] ペインで、[タイプ別にグループ化されたテンプレート] を選択します。

**DBSPI-**または **Oracle** で始まる名前のポリシー テンプレートを使用しないようにする必要があります。

2. コンテンツ パックを開きます。

BSM では、[管理] > [モニタリング] > [セットアップ] > [コンテンツ パック] をクリックします。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [コンテンツ パック] をクリックします。

**OMi Management Pack for Oracle Database** および **Component for Database Management Packs** がリストに表示されないようにする必要があります。

## その他の BSM DPS 更新の BSM 9.23 へのインストール

OMi MP for Oracle をインストールする前に、次の BSM DPS 更新を BSM DPS のみにインストールする必要があります。この更新は MPDVD に収録されています。

**注:** BSM の一般的なサーバには、この追加の BSM DPS 更新は必要ありません。

**注:** この更新は BSM 9.23 にのみ必要で、これより上のバージョンには必要ありません。

更新をインストールするには、次の手順を実行します。

**Linux 上の BSM DPS の場合:**

1. 次のコマンドを実行して `opr-config-content-server.war` のバージョンを確認します。

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

```
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-content-server.war
```

バージョンが 09.23.171 の場合は、次の手順を実行します。それ以外の場合は手順をスキップして「[BSM または OMi での OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストール](#)」に移動します。

2. 以下の手順を実行して、新しい `.war` ファイル `opr-config-content-server.war` を適用します。
  - a. **BSM DPS** を停止します。

- b. 次のコマンドを使用して、既存の `opr-config-content-server.war` ファイルをバックアップします。

```
mv ./opr-config-content-server.war ./orig_opr-config-content-server.war
```

- c. MPDVD をマウントし、`<MPDVD>/MA_DPS.war/` の `opr-config-content-server.zip` をコピーして、`/opt/HP/BSM/Temp` に置きます。

- d. `.zip` ファイル `opr-config-content-server.zip` を `/opt/HP/BSM/Temp` に解凍します。

- e. 解凍した `opr-config-content-server.war` ファイルを `/opt/HP/BSM/opr/webapps` に移動します。

```
mv /opt/HP/BSM/Temp/opr-config-content-server.war /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

- f. 次のコマンドを実行します。

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi -noGW
```

- g. **BSM** を開始します。

#### Windows 上の BSM DPS の場合：

1. 次のコマンドを実行してバージョン番号をチェックします。

```
cd %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-content-server.war
```

バージョンが 09.23.171 の場合は、次の手順に進みます。それ以外の場合は次の手順をスキップして「[BSM または OMi での OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストール](#)」に移動します。

2. 新しい `.war` ファイル `opr-config-content-server.war` を適用するため、以下の手順を実行します。

- a. **BSM DPS** を停止します。

- b. 既存の `opr-config-content-server.war` ファイルをバックアップします。



```
move opr-config-content-server.war orig_opr-config-content-server.war
```

- c. MPDVD をマウントまたは解凍し、<MPDVD>\MA\_DPS.war\ から opr-config-content-server.zip をコピーして、%TOPAZ\_HOME%\Temp に置きます。
- d. zip ファイル opr-config-content-server.zip を %TOPAZ\_HOME%\Temp に解凍します。
- e. 解凍した opr-config-content-server.war ファイルを %TOPAZ\_HOME%\Temp から %TOPAZ\_HOME%\opr\webapps に移動します。

```
cd %TOPAZ_HOME%\Temp\
```

```
move opr-config-content-server.war %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

- f. 以下のコマンドを実行します。

```
cd %TOPAZ_HOME%\opr\bin
```

```
cscript /nologo oprcfg-configuration.vbs -setup omi -noGW
```

- g. **BSM** を開始します。

## OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストールの詳細は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「BSM での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」の章を参照してください。

## BSM または OMi での OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Oracle Database を BSM サーバ(Linux または Windows) または OMi サーバ(Linux または Windows) にインストールするには、MPDVD を使用します。この項では、OMi MP for Oracle Database を BSM サーバまたは OMi サーバにインストールする手順について説明します。

**注:** BSM 分散環境では、OMi MP for Oracle Database がすべての BSM サーバ(BSM DPS および BSM GWS) にインストールされている必要があります。インストールを進める前に、Monitoring Automation が実行中であることを確認する必要があります。ステータスを確認するには、BSM コンソールにログオンし、**[管理] > [セットアップと保守] > [サーバデプロイメント]** に移動して、Monitoring Automation が有効かどうかを確認します。

## Linux BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for Oracle Database を Linux BSM/OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザとしてログオンします。
2. コマンド `umask 022` を入力して、`umask` を設定します。
3. コマンド `mkdir /<mount_point>` を入力して、DVD または電子メディアをマウントするディレクトリを作成します。

例: `mkdir /dvdrom`

4. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、次のコマンドを使用してマウントします。

DVD の場合: `mount /dev/<dvdrom_drive_name> /<mount_point>`

電子メディアの場合: `mount -o loop <e-media> /<mount_point>`

5. ディレクトリを `/<mount_point>` に変更します。
6. 次のコマンドを実行します。

```
./mpinstall.sh -i [-h|help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i</code>
英語以外の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i -locale &lt;mplocale&gt;</code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Oracle Database をインストールするには、次のコマンドを指定します。

```
./mpinstall.sh -i -locale zh_CN
```

**注:** 次のコマンド オプションを使用できます。

```
mpinstall.sh -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

`-i`: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh\_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール
- de: ドイツ語ロケール
- fr: フランス語ロケール
- es: スペイン語ロケール
- ko: 韓国語ロケール
- ru: ロシア語ロケール

**注:** SSL 構成の場合、OMi MP のインストーラプログラムに `-ssl` オプションが含まれます。

次のコマンドを実行します。

```
ContentManager.bat -l -verbose -username <BSMUsername> -password <BSMPasssword>
-ssl
```

このコマンドを実行すると、証明書を受け入れるように要求するメッセージが表示されます。証明書を受け入れたら、次のコマンドをもう一度実行して、コンテンツパックをインストールします。

```
cscript install.vbs -username <BSMUsername> -password <BSMPasssword> -ssl
```

-BSMusername: OMi Management Pack をコンテンツマネージャにアップロードするためのユーザ名。

-BSMpassword: OMi Management Pack をコンテンツマネージャにアップロードするためのユーザ名に対応するパスワード。

-ssl: SSL を使用して BSM を構成する場合はこのフラグを使用します。

7. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

**注:** 使用許諾契約書 (EULA) に同意しない場合、OMi MP for Oracle Database はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Oracle Database のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

## Windows BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for Oracle Database を Windows BSM または OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。x

1. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、展開します。
2. コマンド プロンプトを開き、<DVD-ROM> または電子メディアのディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <mplocale>] [-h|-help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i
英語以外の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale <MP のロケール>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Oracle Database をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale zh_CN
```

**注:** 次のコマンド オプションを使用できます。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

-i: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh\_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

- de: ドイツ語 ロケール
- fr: フランス語 ロケール
- es: スペイン語 ロケール
- ko: 韓国語 ロケール
- ru: ロシア語 ロケール

**注:** SSL 構成の場合、OMi Management Pack のインストーラプログラムに `-ssl` オプションが含まれます。

次のコマンドを実行します。

```
ContentManager.bat -l -verbose -username <BSMUsername> -password  
<BSMPasssword> -ssl
```

このコマンドを実行すると、証明書を受け入れるように要求するメッセージが表示されます。証明書を受け入れたら、次のコマンドをもう一度実行して、コンテンツパックをインストールします。

```
cscript install.vbs -username <BSMUsername> -password <BSMPasssword> -ssl
```

-BSMusername: OMi Management Pack をコンテンツマネージャにアップロードするためのユーザー名。

-BSMpassword: OMi Management Pack をコンテンツマネージャにアップロードするためのユーザー名に対応するパスワード。

-ssl: SSL を使用して BSM を構成する場合はこのフラグを使用します。

3. エンドユーザー使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Oracle Database のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

## ライセンスの適用

この項では、ライセンスの更新とアクティブ化について説明します。

**注:** ライセンスの取得の詳細は、「[ライセンス](#)」を参照してください。

新しいライセンスでデプロイメントを更新し、ライセンスをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

1. [ライセンス管理] に移動します。

BSM で [管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] をクリックします。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] をクリックします。

ライセンス管理では、名前、ライセンスのタイプ、期限切れまでの残り日数、有効期限、ライセンス数などの情報が表示されます。

2.  をクリックして [ライセンスの追加] ダイアログ ボックスを開き、使用する .dat ファイルを検索します。

**注:** .dat ファイルは [www.hp.com/software/licensing](http://www.hp.com/software/licensing) からダウンロードできます。

**注:** インストール後のライセンスアクティブ化には遅延があります。ライセンスが自動的にアクティブ化されない場合、ステップ 3 を実行する必要があります。

3. (オプション) ライセンスをアクティブ化するには、[ライセンス管理] ウィンドウの下にある [サーバデプロイメント] リンクをクリックします。

**注:** OMi MP for Oracle Database の場合、Oracle インスタンスを無効にすると、ライセンス数はゼロになります。dbspicol OFF コマンドで収集を無効にすると、OMi MP for Oracle Database インスタンスの数は 1 になります。

## Operations Orchestration (OO) フローのインストール

OMi MP for Oracle Database の OO フローでは、IT プロセスの自動化とランブックの自動化が可能です。OO フローの詳細は、Operations Orchestration のドキュメントを参照してください。次の項では、OMi MP for Oracle Database での HP OO Studio (バージョン 9.0x) の OO フローのインストールについて説明します。

**注:** OMi MP for Oracle Database に付属する OO フローは、HP Operations Manager (HPOM) サーバで管理される Smart Plug-in でアプリケーションを監視するデプロイメントシナリオでのみ使用できます。この場合、OMi MP for Oracle Database に含まれた OO フローを OO サーバにインストールし、OMi-OO 統合を通じて OO フローを起動できます。OMi-OO 統合の詳細は、『BSM - Operations Orchestrations Integration Guide』を参照してください。

## OO フローのアップロード

OMi MP for Oracle Database から OO フローをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. BSM で次のディレクトリに移動します。

**Linux の場合:**

```
/opt/HP/BSM/conf/opr/oo
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\conf\opr\oo
```

2. **HPOprOOOra90.jar** を、HP OO Studio (バージョン 9.0x) がインストールされているシステムの一時的ディレクトリにコピーします。

- Oracle 用 **HPOprOOOra.jar**

次のコマンドを実行して、OO フローをインストールおよびアップロードします。

```
java -jar -Xmx1024m "<一時>/HPOprOOOra90" -centralPassword <central のパスワード>
```

**注:** コンテンツのインストールの詳細は、『HP Operations Orchestration Software Development Kit Guide』の「Installing the content」を参照してください。

HP OO Studio を使用して、次の場所から OO フローにアクセスできます。

```
../Library/Operations Management/..
```

3. BSM コンソールから、OO フローを CI にマッピングし、OO フローの入力変数を CI 属性にマッピングします。

BSM では、**[管理]** > **[統合]** > **[Operations Orchestration]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[操作コンソール]** > **[ランブックマッピング]** をクリックします。

## OMi MP for Oracle Database のインストールの確認

この項では、Linux および Windows BSM サーバでの OMi MP for Oracle Database のインストールの確認について説明します。

OMi MP for Oracle Database のインストールは、次の手順で確認できます。

- 以下の場所で BSM GWS、BSM DPS、および BSM の一般サーバのログファイルのエラーをチェックします。

**Linux の場合:**

```
/opt/HP/BSM/log/mpinstall.log
```

**Windows の場合：**

```
%TOPAZ_HOME%\log\mpinstall.log
```

- 次の場所をチェックします。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for Oracle Database** が表示されている必要があります。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for Oracle Database** が表示されている必要があります。

- BSM サーバにインストールされている OMi MP をリストするには、以下のコマンドを実行します。

**Linux の場合：**

```
/opt/HP/BSM/bin/ContentManager.sh -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -1
```

**Windows の場合：**

```
%TOPAZ_HOME%\bin\ContentManager.bat -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -1
```

**注：** ContentManager.bat または ContentManager.sh コマンドで、コンテンツ パックの名前とバージョンがリスト表示されます。

- OMi MP for Oracle Database のバージョン番号は 1.10 で、管理テンプレート、アスペクト、ポリシーテンプレートのバージョン番号は 1.00 です。

**注：** 次の場所に、BSM GWS と BSM DPS の両方の OMi ログファイルがあります。

**Linux の場合：** /opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log

**Windows の場合：** %TOPAZ\_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log



## 第3章: 作業の開始

ここでは、OMi MP for Oracle Database を使用して Oracle データベースを監視する手順を詳しく説明します。

BSM コンソールでの作業の開始の詳細については、「[BSM コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

OMi コンソールでの作業の開始の詳細については、「[OMi コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

### BSM コンソールでの作業の開始

ここでは、OMi MP for Oracle Database を使用して Oracle データベースを監視する手順を詳しく説明します。

#### タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加

**注:** RTSM にノードがすでに存在する場合、このステップをスキップしてタスク 2 に進むことができます。

監視を始める前に、BSM コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード]

2. [ノードビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、\* をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [UNIX] をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

新規に作成されたノードが CI インスタンスとして RTSM に保存されます。

**注:** Operations Agent が稼働するノードは、OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

#### タスク 2: Oracle 検出アスペクトのデプロイ

追加した管理対象ノード上の Oracle CI を検出するには、次の手順で Oracle 検出アスペクトをデプロイする必要があります。

1. [管理 テンプレート および アスペクト] ペインを開きます。  
**[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート および アスペクト]**
2. [構成 フォルダ] ペインで、次を選択します。  
**[構成 フォルダ] > [データベース管理] > [Oracle] > [Oracle のアスペクト]**
3. [管理 テンプレート および アスペクト] フォルダで Oracle 検出 アスペクトを右クリックし、**[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成 アイテム]** タブで Oracle 検出 アスペクトをデプロイする CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、**[次へ]** をクリックします。

**注:** Oracle 検出 アスペクトには必須パラメータはありません。「この割り当てには編集が必要なパラメータはありません。」というメッセージが通知されます。

6. **[すべてのパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックします。
7. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
8. **[完了]** をクリックします。

**注:** Oracle 検出 アスペクトをデプロイすると、[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました] から始まるメッセージが表示されます。**[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [デプロイメント ジョブ]** を選択し、デプロイメント ジョブのステータスを確認します。

## タスク 4: 検出の確認

Oracle 検出 アスペクトをデプロイした後、トップビューに CI が表示されていることを確認する必要があります。

トップビューの CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[MyBSM]** をクリックします。
2. ドロップダウンリストから **[トップビュー]** を選択します。[トップビュー] ページが表示されます。
3. [トップビュー] ページで **ORA\_Deployment** を選択します。トップビューに CI が表示されています。

## タスク 5: Oracle 管理テンプレートまたは Oracle アスペクトのデプロイ

**Monitoring Automation for Composite Applications** ライセンスを使用している場合、Oracle 管理テンプレートまたは Oracle アスペクトを CI にデプロイできます。Oracle 管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 5a: Oracle 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」を参照してください。Oracle アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 5b: Oracle アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

**Monitoring Automation for Servers** ライセンスを使用している場合、Oracle アスペクトをデプロイできます。Oracle アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 5b: Oracle アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

### タスク 5a: Oracle 管理テンプレートの特定とデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、Oracle 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: Oracle 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

Oracle 管理テンプレートのデプロイでは、次に示すように、環境に適した Oracle 管理テンプレートを特定する必要があります。

- RAC、ASM、Dataguard、単一インスタンスのデータベースなどで構成される Oracle データベース環境の基本的な機能を監視するには、**基本 Oracle 管理テンプレート**をデプロイします。
- RAC 環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 Oracle 管理テンプレート**をデプロイします。この管理テンプレートは、クラスタ内のすべてのインスタンスにデプロイする必要があります。
- Data Guard 環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 Oracle 管理テンプレート**をデプロイします。この管理テンプレートは、プライマリノードとスタンバイノードにデプロイする必要があります。
- ASM 環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 Oracle 管理テンプレート**をデプロイします。この管理テンプレートは、ASM CI にデプロイする必要があります。**ASM インスタンスパラメータ**が **[[はい]]** に設定されていることを確認してください。
- エージェントレス監視を行うには、**ハイブリッド Oracle 管理テンプレート**をデプロイします。


Oracle 管理テンプレートをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

**[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]**





2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。


**[構成フォルダ] > [データベース管理] > [Oracle] > [Oracle 管理テンプレート]**

3. **[Oracle 管理テンプレート]** フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。**[割り当てとデプロイ]** ウィザードが開きます。

4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブでは、必須パラメータである [Oracle インスタンス ユーザ名] と [Oracle インスタンス パスワード] を指定します。**必要なパラメータ**を指定するには、次の手順を実行します。

**注:** 必要なパラメータのリストには、値を指定していない管理テンプレートの必須パラメータがすべて表示されます。

- a. リストの **[Oracle インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[Oracle インスタンス ユーザ名] ダイアログボックスが開きます。
  - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
  - c. リストの **[Oracle インスタンス パスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。[Oracle インスタンス パスワード] ダイアログボックスが開きます。
  - d. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。
  7. **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。パラメータのデフォルト値を変更するには、次の手順を実行します。
    - a. リストの **[Oracle インスタンス名]** パラメータを選択して  をクリックします。[インスタンスパラメータの編集] ウィンドウが開きます。
    - b. リストでパラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

**注:** **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

8. **[次へ]** をクリックします。
9. オプション: **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

**注:** 管理テンプレートのデプロイ時に与えられるユーザ名には、OMi MP for Oracle Database のデー

タ収集権限が必要となります。Oracle ユーザである **system** を使用するか、ユーザを新規作成します。ノード上でユーザを作成するには、**dbspiocr.sh** or **dbspiocr.bat** スクリプト (次の手順で説明) を使用するか、**dbspiocr.sql** を参考にユーザを手作業で作成します。このスクリプトには、必要な権限一覧の情報も含まれます。このスクリプトは、Oracle 検出アスペクトをデプロイすると次の場所に格納されます。

#### Linux の場合:

```
/var/opt/OV/bin/instrumentation
```

**用法:** dbspiocr.sh -oracle\_home <OracleHomeDir> -oracle\_sid <InstanceName> -sys\_pass <SysPassword> -user <NewUserName> -user\_pass <NewUserPassword> -def\_ts <DefaultTableSpaceName> -tmp\_ts <TempTableSpaceName>

**例:** dbspiocr.sh -oracle\_home /app/oracle/product/db\_1 -oracle\_sid orcl -sys\_pass manager -user hporamp -user\_pass hporamp -def\_ts users -tmp\_ts temp

#### Windows の場合:

```
<ovagentdir>\bin\instrumentation
```

**用法:** dbspiocr.bat -oracle\_home <OracleHomeDir> -oracle\_sid <InstanceName> -sys\_pass <SysPassword> -user <NewUserName> -user\_pass <NewUserPassword> -def\_ts <DefaultTableSpaceName> -tmp\_ts <TempTableSpaceName>

**例:** dbspiocr.bat -oracle\_home C:\app\oracle\product\db\_1 -oracle\_sid orcl -sys\_pass manager -user hporamp -user\_pass hporamp -def\_ts users -tmp\_ts temp

Oracle Database 12.1 以降では、ユーザ名にプレフィックス **c##** を付加してください。たとえば、**c##hporamp** のように指定します。

## タスク 5b: Oracle アスペクトのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、Oracle 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: Oracle 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。


Oracle 検出アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [データベース管理] > [Oracle] > [Oracle のアスペクト]

3. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインでデプロイする Oracle アスペクトをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. [構成アイテム] タブでアスペクトを割り当てる CI をクリックし、[次へ] をクリックして [すべてのパラメータ] に進みます。

**注:** 必要なパラメータは、Oracle 検出アスペクトのデプロイ時にすでに指定されています。

**注:** **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

5. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
6. **[完了]** をクリックします。

## root 以外のユーザが実行する HP Operations Agent 向けに OMi MP for Oracle Database を設定する方法

root 以外のユーザで Operations Agent を実行する UNIX ノードでは、「[BSM コンソールでの作業の開始](#)」で説明されたタスクに加えて、次のタスクを実行する必要があります。

### タスク 1: Oracle 検出アスペクトのデプロイ前

Oracle 検出アスペクトをデプロイする前に、次の手順を実行します。

1. この非 root ユーザには、/var/opt/0V ディレクトリに対する読み取り、書き込み、実行の権限を割り当てる必要があります。
2. /etc/opt/0V ディレクトリを作成し、非 root ユーザに読み取り、書き込み、実行の権限を割り当てます。

### タスク 2: Oracle 検出アスペクトのデプロイ後

Oracle 検出アスペクトをデプロイした後に、次の手順を実行します。

1. root ユーザで /var/opt/0V/bin/instrumentation でスクリプトを実行します。

```
dbspi_root.pl
```

/etc/dbspi.su が作成されます。

2. root ユーザで dbspi.su ファイルを開き、次の行のコメントを解除するか、新しい行を追加します。

```
<ユーザ>:<コマンド>
```

次に例を示します。

```
oracle:/opt/oracle/product/sqlplus /nolog
```

(sqlplus コマンドを許可)

または

oracle:/opt/oracle/product/\*

(Oracle ユーザによるあらゆるコマンドの実行を許可)

### タスク 3: Oracle 管理テンプレートまたは Oracle アスペクトのデプロイ後

1. 次のコマンドを実行して、監視する Oracle データベースアラート ログを特定します。

```
/var/opt/OV/bin/instrumentation/dbspicao -l
```

2. この非 root ユーザには、アラート ログ監視に対する読み取り権限を割り当てる必要があります。

## OMi コンソールでの作業の開始

ここでは、OMi MP for Oracle Database を使用して Oracle データベースを監視する手順を詳しく説明します。


### タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加

注: RTSM にノードがすでに存在する場合、このステップをスキップしてタスク 2 に進むことができます。

監視を始める前に、OMi コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

**[管理] > [セットアップと保守] > [モニタ対象ノード]**

2. [ノードビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、 をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [UNIX] をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

新規に作成されたノードが CI インスタンスとして RTSM に保存されます。

注: Operations Agent が稼働するノードは、OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

## タスク2: Oracle 検出アスペクトのデプロイ

追加した管理対象ノード上の Oracle CI を検出するには、次の手順で Oracle 検出アスペクトをデプロイする必要があります。

1. [管理 テンプレート およびアスペクト] ペインを開きます。

**[管理] > [監視] > [管理 テンプレート およびアスペクト]**

2. [構成 フォルダ] ペインで、次を選択します。

**[構成 フォルダ] > [データベース管理] > [Oracle] > [Oracle のアスペクト]**

3. [Oracle のアスペクト] フォルダで **Oracle 検出アスペクト** を右クリックし、**[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックして **[割り当てとデプロイ]** ウィザードを開きます。
4. **[構成 アイテム]** タブで Oracle 検出アスペクトをデプロイする CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、**[次へ]** をクリックします。

**注:** Oracle 検出アスペクトには必須パラメータはありません。「この割り当てには編集が必要なパラメータはありません。」というメッセージが通知されます。

6. **[パラメータ サマリ]** タブで、**[次へ]** をクリックします。
7. (オプション) **[構成 オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
8. **[完了]** をクリックします。

**注:** Oracle 検出アスペクトをデプロイすると、**[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました]** から始まるメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理] > [監視] > [デプロイメント ジョブ]** を選択します。

## タスク3: 検出の確認

Oracle 検出アスペクトをデプロイした後、**[360° View]** に CI が表示されていることを確認する必要があります。

**[360° View]** に CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. OMi コンソールで、**[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [360° View]** をクリックします。
2. ドロップダウンリストから **[360° View]** を選択します。**[360° View]** ページが表示されます。



3. [360° View] ページで **ORA\_Deployment** を選択します。[360° View] に CI が表示されています。

## タスク 4: Oracle 管理テンプレートまたは Oracle アスペクトのデプロイ

**Monitoring Automation for Composite Applications** ライセンスを使用している場合、Oracle 管理テンプレートまたは Oracle アスペクトを CI にデプロイできます。Oracle 管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 4a: Oracle 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」を参照してください。Oracle アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 4b: Oracle アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

**Monitoring Automation for Servers** ライセンスを使用している場合、Oracle アスペクトをデプロイできます。Oracle アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 4b: Oracle アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

### タスク 4a: Oracle 管理テンプレートの特定とデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、Oracle 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: Oracle 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

Oracle 管理テンプレートのデプロイでは、次に示すように、環境に適した Oracle 管理テンプレートを特定する必要があります。

- RAC、ASM、Dataguard、単一インスタンスのデータベースなどで構成される Oracle データベース環境の基本的な機能を監視するには、**基本 Oracle 管理テンプレート**をデプロイします。
- RAC 環境を詳細に監視するには、**拡張 Oracle 管理テンプレート**をデプロイします。この管理テンプレートは、クラスタ内のすべてのインスタンスにデプロイする必要があります。
- Dataguard 環境を詳細に監視するには、**拡張 Oracle 管理テンプレート**をデプロイします。この管理テンプレートは、プライマリノードとスタンバイノードにデプロイする必要があります。
- ASM 環境を詳細に監視するには、**拡張 Oracle 管理テンプレート**をデプロイします。この管理テンプレートは、ASM CI にデプロイする必要があります。**ASM インスタンスパラメータ**が **[はい]** に設定されていることを確認してください。
- エージェントレス監視を行うには、**ハイブリッド Oracle 管理テンプレート**をデプロイします。


Oracle 管理テンプレートをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

**[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]**

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。





**[構成フォルダ] > [データベース管理] > [Oracle] > [Oracle 管理テンプレート]**


3. **[Oracle 管理テンプレート]** フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。

[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブでは、必須パラメータである [Oracle インスタンス ユーザ名] と [Oracle インスタンス パスワード] を指定します。**必要なパラメータ** を指定するには、次の手順を実行します。

**注:** 必要なパラメータのリストには、値を指定していない管理テンプレートの必須パラメータがすべて表示されます。

- a. リストの **[Oracle インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[Oracle インスタンス ユーザ名] ダイアログボックスが開きます。
  - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
  - c. リストの **[Oracle インスタンス パスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。[Oracle インスタンス パスワード] ダイアログボックスが開きます。
  - d. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。
  7. **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。パラメータのデフォルト値を変更するには、次の手順を実行します。
    - a. リストの **[Oracle インスタンス名]** パラメータを選択して  をクリックします。[インスタンス パラメータの編集] ウィンドウが開きます。
    - b. リストでパラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

**注:** **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

8. **[次へ]** をクリックします。
9. (オプション)**[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

**注:** 管理テンプレートのデプロイ時に与えられるユーザ名には、OMi MP for Oracle Database のデータ収集権限が必要となります。Oracle ユーザである **system** を使用するか、ユーザを新規作成します。ノード上でユーザを作成するには、**dbspiocr.sh** or **dbspiocr.bat** スクリプト (次の手順で説明) を使用するか、**dbspiocr.sql** を参考にユーザを手作業で作成します。このスクリプトには、必要な権限一覧の情報も含まれます。このスクリプトは、Oracle 検出アスペクトをデプロイすると次の場所に格納されます。

#### Linux の場合:

```
/var/opt/OV/bin/instrumentation
```

**用法:** dbspiocr.sh -oracle\_home <OracleHomeDir> -oracle\_sid <InstanceName> -sys\_pass <SysPassword> -user <NewUserName> -user\_pass <NewUserPassword> -def\_ts <DefaultTableSpaceName> -tmp\_ts <TempTableSpaceName>

**例:** dbspiocr.sh -oracle\_home /app/oracle/product/db\_1 -oracle\_sid orcl -sys\_pass manager -user hporamp -user\_pass hporamp -def\_ts users -tmp\_ts temp

#### Windows の場合:

```
<ovagentdir>\bin\instrumentation
```

**用法:** dbspiocr.bat -oracle\_home <OracleHomeDir> -oracle\_sid <InstanceName> -sys\_pass <SysPassword> -user <NewUserName> -user\_pass <NewUserPassword> -def\_ts <DefaultTableSpaceName> -tmp\_ts <TempTableSpaceName>

**例:** dbspiocr.bat -oracle\_home C:\app\oracle\product\db\_1 -oracle\_sid orcl -sys\_pass manager -user hporamp -user\_pass hporamp -def\_ts users -tmp\_ts temp

Oracle Database 12.1 以降では、ユーザ名にプレフィックス **c##** を付加してください。たとえば、**c##hporamp** のように指定します。

## タスク 4b: Oracle アスペクトのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、Oracle 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: Oracle 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。


Oracle 検出アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。


**[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]**

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

**[構成フォルダ] > [データベース管理] > [Oracle] > [Oracle のアスペクト]**

3. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで、デプロイする Oracle アスペクトをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] タブでアスペクトを割り当てる CI をクリックし、[次へ] をクリックして [必要なパラメータ] に進みます。

**注:** 必要なパラメータは、Oracle 検出アスペクトのデプロイ時にすでに指定されています。

**注:** [パラメータ サマリ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 [エキスパートパラメータの表示] をクリックします。

5. (オプション)[構成オプション] タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は [割り当ての有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
6. [完了] をクリックします。

## root 以外のユーザが実行する HP Operations Agent 向けに OMi MP for Oracle Database を設定する方法

root 以外のユーザで Operations Agent を実行する UNIX ノードでは、「[OMi コンソールでの作業の開始](#)」で説明されたタスクに加えて、次のタスクを実行する必要があります。

### タスク 1: Oracle 検出アスペクトのデプロイ前

Oracle 検出アスペクトをデプロイする前に、次の手順を実行します。

1. この非 root ユーザには、/var/opt/OV ディレクトリに対する読み取り、書き込み、実行の権限を割り当てる必要があります。
2. /etc/opt/OV ディレクトリを作成し、非 root ユーザに読み取り、書き込み、実行の権限を割り当てます。

### タスク 2: Oracle 検出アスペクトのデプロイ後

Oracle 検出アスペクトをデプロイした後に、次の手順を実行します。

1. root ユーザで /var/opt/OV/bin/instrumentation でスクリプトを実行します。

```
dbspi_root.pl
```

/etc/dbspi.su が作成されます。

2. root ユーザで dbspi.su ファイルを開き、次の行のコメントを解除するか、新しい行を追加します。

```
<ユーザ>:<コマンド>
```

次に例を示します。

```
oracle:/opt/oracle/product/sqlplus /nolog
```

(sqlplus コマンドを許可)

または

```
oracle:/opt/oracle/product/*
```

(Oracle ユーザによるあらゆるコマンドの実行を許可)

### タスク 3: Oracle 管理テンプレートまたは Oracle アスペクトのデプロイ後

1. 次のコマンドを実行して、監視する Oracle データベースアラート ログを特定します。

```
/var/opt/OV/bin/instrumentation/dbspicao -l
```

2. この非 root ユーザには、アラート ログ監視に対する読み取り権限を割り当てる必要があります。

## ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チーム](#)までご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

### **Feedback on インストールガイド (OMi Management Pack for Oracle Database 1.10)**

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

